

玉川教会たより

NO. 455
3月23日

▼身近な所で、〇〇周年という言葉が目立つ。先ず、プロテストメント日本伝道150周年を迎えたのは2010年だった。この時には、青山学院を会場とした15000人の集

会など、賑やかな祝賀行事があった。それ以前に沖繩伝道が行われていた、小規模なものとはいえず、これを無視するのは

間違いたという批判もあったが、記念集会が成功裏に終わったこともあり、日本伝道の100年道へ

へとして意味があったと思う。しかし、その丁度一年後に起った大震災によって、気持ちも、資金も、全くこれに向かい、伝道意欲は削がれたかも知れない。



教会創立70周年に向かい

▼信徒の友は、今年50周年。教団出版局自体よりも3年早い。全国各地で、記念集会が持たれる。2017年には、教団出版局50周年。それよりも何よりも、宗教改革500年。当然、様々なイベントや事業が、世界的な規模で行われるだろう。日本福音協会は、新し

い聖書翻訳に取りかかっている。聞く。

▼この時を期して、全国青年大会が教団伝道推進室によって企画準備されている。2000人規模の集会が目標とされ、既に昨年夏に

プレ大会が持たれ、2000人程の高校生・大学生が軽井沢に集まった。今年はその倍、来年は更にその倍、再来年はとうとう1万人、人数も増やし、一大リハイバル運動として育つことが、期待されている。

▼教勢の不振、特に青年伝道の停滞が危惧さ

れて久しいが、ようやく、新しいムーブメントが起りつつとされている。宗教改革500年、この数字にどんな意味があるかは分からない。しかし、そんな理屈を捨て、この時を看過するようでは、教会の再生はないだろう。チャンスとみなしてこそ、具体的な取り組みに向かうことが出来る。その意欲も湧いて来る。

▼さて、2017年は、併せて、我が玉川教会の創立70周年となる。ちよつと半端な数字かも知れないが、私たちに与えられた、宗教改革500年に匹敵するくらいの大変な時代と考える。そう考え、向かい合うことで、チャンスとすることが出来る。

▼4月27日の礼拝後、特にこのことを議題とした教会総会が持たれる。ここで、宗教改革500年、玉川教会の創立70周年にふさわしい伝道の力が与えられ、玉川教会が新しい世紀に入ることが出来る

ようにと、願ひ祈るばかりだ。勿論、宗教改革500年も玉川教会の創立70周年も、到達点・ゴールではない、むしろ、新しい出発点だ。そこで、準備を整え、覚悟を新たに祈りを合わせて、初めて、100周年に向かうことが出来る。

4～5月の諸集會予定

諸集會を覚えて、ご加禱下さい。

棕櫚の主日(受難週)
4月13日(日)

洗足木曜日
4月17日(木)

受難日
4月18日(金)

總會資料作成準備会
4月19日(土)
午後1時より。

復活日(イースター)
4月20日(日)

礼拝後、愛餐会・記念撮影

定期教会総会
4月27日(日)礼拝後

教会役員選挙
4月13日(日)
～4月27日(日)

母の日

5月11日(日)

母の日は、教会から始まった教会行事です。